

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	エヌティーテクノ株式会社北工場増築	階数	地上2階
建設地	愛知県高浜市論地町1丁目7-30(他)	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域:指定なし	平均居住人員	80人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年12月 予定	評価の実施日	2017年5月22日
敷地面積	3,925 m <sup>2</sup>	作成者	渡邊 純一
建築面積	2,298 m <sup>2</sup>	確認日	2017年5月22日
延床面積	2,335 m <sup>2</sup>	確認者	渡邊 純一



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">22.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部		建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体		
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.5</b>	
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ソーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>3.1</b>	
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

更新必要間隔が20年以上  
 屋外露出ダクトにステンレスダクトを使用  
 主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用  
 空調機の更新必要間隔20年

<b>3 対応性・更新性</b>				3.2	0.48			-	3.2
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高3.9m以上を確保	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比=0.113	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				2.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.2	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				4.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			仮設スペースが確保でき、かつ更新・修繕時に建物機能を維持でき	3.0	0.22			-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.57			-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>								-	3.4
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40			-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制								-	
2 自然エネルギー利用								-	
3 設備システムの高効率化								-	
4 効率的運用				4.0	1.00			-	4.0
集合住宅以外の評価				4.0	1.00			-	
4.1 モニタリング								-	
4.2 運用管理体制			建物全体のエネルギー消費量の目標値が計画されている	4.0	1.00			-	
集合住宅の評価								-	
4.1 モニタリング								-	
4.2 運用管理体制								-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30			-	2.9
1 水資源保護				2.2	0.15			-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63			-	2.9
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.21			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		3.0	0.21			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材								-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		独自		3.0	0.25			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22			-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			塗床材に、指定化学物質を含まない	4.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤								-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00			-	
3 冷媒								-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30			-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①						-	
2 地域環境への配慮				3.5	0.50			-	3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない	5.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	適切な駐車場の確保	5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.50			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.33			-	
2 振動		独自		3.0	0.33			-	
3 悪臭				3.0	0.33			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制								-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たしている	5.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

# 重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

エヌディーテクノ株式会社北工場増築工事

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>N.A</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	<b>2.9</b>
<b>② 資源の有効活用</b>				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.21	<b>1.0</b>
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:22.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

### ■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 シンプルで良好な室内環境の確保。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 工場生産エリアの為、評価対象外。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 空間の形状・自由度を考慮し、階高及び壁長さ比等に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外壁デザインを極力シンプルなもの(ALC+吹付タイル)とし、周辺の風景とバランスよく調和した計画としている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 運用管理体制を計画し、建物全体のエネルギー消費量の目標値が計画されている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 有害物質を含まない材料を採用する。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 特になし。